

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】 菊地 淑人

【所属】(助成決定時) 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程世界文化遺産学専攻

【研究題目】 無形文化遺産保護に関する国際協力体制構築のための基礎的研究
—アジアにおける地域社会の参画を中心に—

【研究の目的】

地域社会と遺産保護及びその国際協力のあり方に関し、巨視的／微視的両視野からその効果的方策を検討することで将来的な国際的／国内的な制度立案に寄与することが本研究の大きな目的である。つまり、国際社会における諸制度、また国際協力等におけるコミュニティの位置づけに関してマクロな視点から分析するとともに、有形、無形文化遺産保護に関して多くの国際協力の実績がある地域を対象とし、そこでのフィールドワーク等を通じてミクロな視点からの分析を行う。なお、後者の視点では、フィリピン・ルソン島北部のイフガオ州に位置する世界遺産「フィリピン・コルディリエーラの棚田群」における有形・無形の文化を対象とする。同地域は多くの棚田が広がり、また、豊かな農耕に関する文化も継承されてきた。それらは、世界遺産リストや無形文化遺産保護条約代表一覧表に記載されているが、後継者の不在などによって耕作放棄が進行し、文化の維持は大きな課題を抱えている。

【研究の内容・方法】

研究においては、前述の観点に関し、以下に示すようなグローバルな動向とローカルな動きの双方の分析を実施した。

■ 各種制度／国際協力の実践におけるコミュニティの位置づけに関する分析

主として以下に挙げる3つの手法を用いて、国際社会、各国政府、地域社会(地元行政を含む)の関係性について検討し、有効な保護施策を検討する一助とする。あわせて、世界遺産委員会等の政府間会議、専門家会議等に参加し、国際機関を中心とした保護の最新の動向を収集した。

コミュニティの同意(Consent of Communities)に関する現況分析:

無形文化遺産保護条約では、遺産の特性を鑑み、コミュニティの同意の取得とそれを証明する文書提出を記載の要件としている(作業指針 2 R.4)。しかし、それが対象とするコミュニティの位置づけは各国によって異なり、様々に解釈されている。そこで、各提案国よりこれまでに提出された同意書をもとにこれらの現況を分析し、将来に資する在り方を検討した。

■ フィリピン・コルディリエーラにおける遺産保護と国際協力をめぐる分析

対象地域に関し、主として国内外における文献調査、フィールドワーク、また関連する国際会議等からの情報収集を中心とし、以下に挙げる観点に着目しての調査分析を行った。

A:同地域のこれまでの変遷に関する史的分析

とくに近代化に伴う変化、また少数民族保護政策、国内外の遺産保護政策による変化等を民族誌や各種統計資料などの文献史資料をもとに分析し、遺産保護の在り方を検討する一助とした。

B:フィールドにおける調査

現地においては、以下のテーマを中心に、関係者からのヒアリング調査、各種行政資料の収集等を実施した。これらを通じて、遺産保護をめぐる同地域の現状を分析し、各種保護活動の効果と問題点の一端を検討した。

- ・国内法制度による影響把握
- ・遺産保護をめぐる国際的動向(UNESCO 等)や国際協力の影響評価
- ・遺産保護をめぐる各種ステークホルダーの状況把握
- ・遺産保護と農林業及び観光業の関係性と将来性の分析

【結論・考察】

無形文化遺産保護では、有形文化遺産保護に比べても、保護に対するコミュニティの同意と関与を重視する傾向が強い。その要因はその成立背景や対象の特性などがあげられるが、ここでは無形文化遺産条約における保護対象となる際の同意書の分析を行い、地域間の差異を検討した。結果、同意取得をめぐるのは、対象者などに国／地域における違いが存在していることが明らかになった(菊地 2012a)。今後、効果的な保護に資する同意取得の在り方を検討していくことが求められる。

他方で、フィールドレベルの分析としては、フィリピン・イフガオ州において、棚田は 1980 年代以降、急激に減少していることが GIS と地図資料を用いた分析で明らかになった(菊地 2012b)。他方で、保護は 1995 年の世界遺産登録、2001 年の危機遺産リスト入りなどを画期として、地元政府や住民参加の度合いが高まり、地元 NGO などによって無形の伝統文化を基軸とした棚田保護が展開されるようになっていったことが明らかになった(菊地 2012c)。

菊地淑人 2012a 「無形文化遺産保護条約とコミュニティの同意—記載提案時における同意書の分析—」『現代民俗学研究』(4)、現代民俗学会、pp.95-105
菊地淑人 2012b 「「フィリピン・コルディリエーラの棚田群」における棚田範囲の変化」『2012 年度日本建築学会大会学術講演会梗概集』、pp.277-278
菊地淑人 2012c 「「世界遺産」の棚田をめぐる国際的・国内的保護の変遷—フィリピン・イフガオの棚田と伝統的文化空間の保護に関する研究(その1)」『日本建築学会計画系論文集』77(679)